

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成30年6月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。

秋田駒ヶ岳では、火山性地震の増加が時々みられ、2018年2月から4月にかけて火山性微動や低周波地震¹⁾が発生したことから、今後の火山活動の推移に注意してください。

また、^{めだけ}女岳では地熱活動が続いていますので、注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～図3、図4-①）

東北地方整備局が設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは20m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

6日に、岩手県及び雫石町と合同で実施した現地調査では、女岳の南東火口及び北東斜面の地熱域や噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図4-②～⑤、図5）

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動及び低周波地震は観測されませんでした。

^{おなめだけ}男女岳山頂付近では、2017年8月以降、火山性地震がわずかに増加する傾向が認められています。

・地殻変動の状況（図6、図8）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられ、主に1～3Hzの低周波成分が卓越した地震です。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られています。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年7月分）は平成30年8月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状態（6月19日18時24分頃）

- ・仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。
- ・赤丸で囲んだ部分が、女岳からの噴気で噴気の高さは20mです。

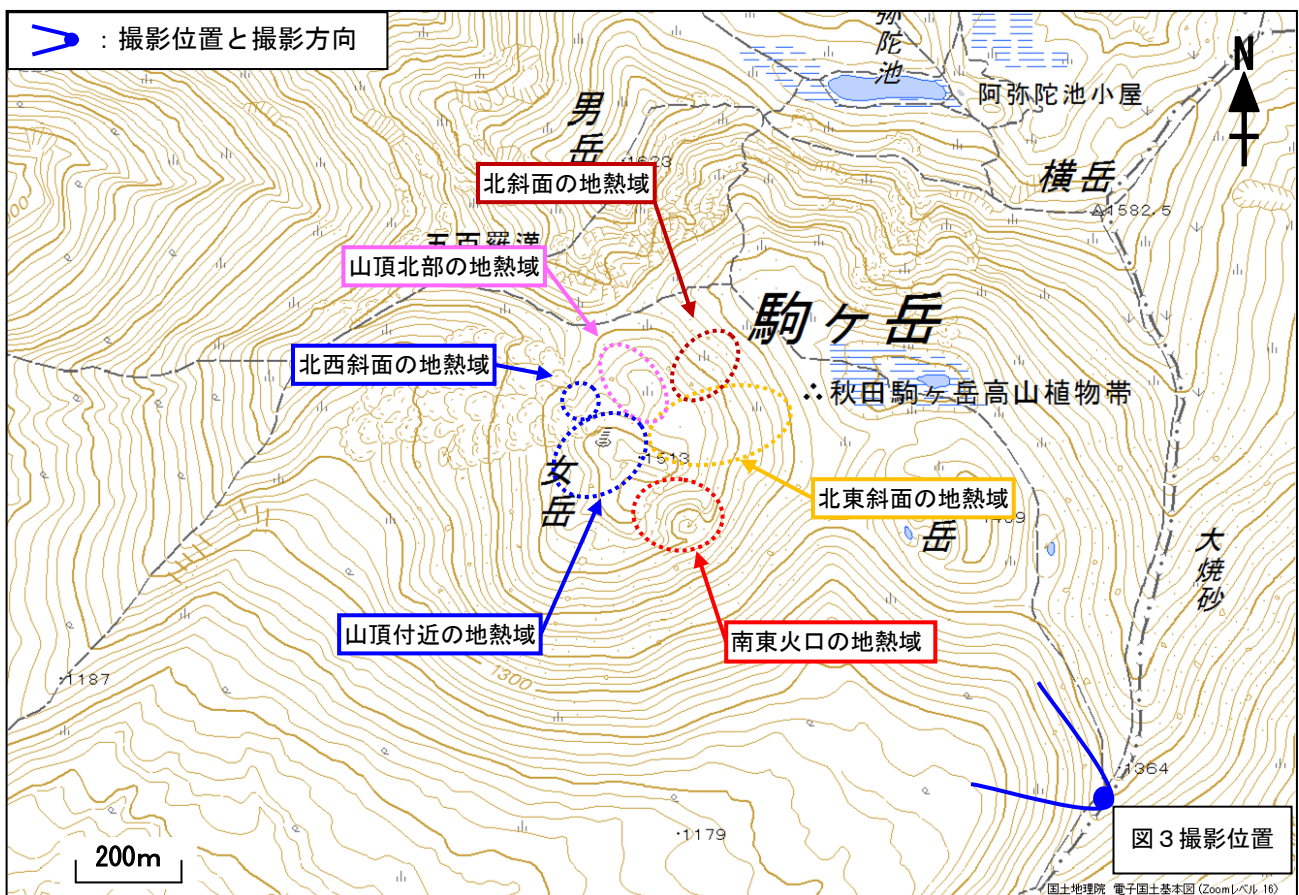


図2 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布及び写真と地表面温度分布²⁾ 撮影位置及び撮影方向

- 2) 赤外熱映像装置による観測。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

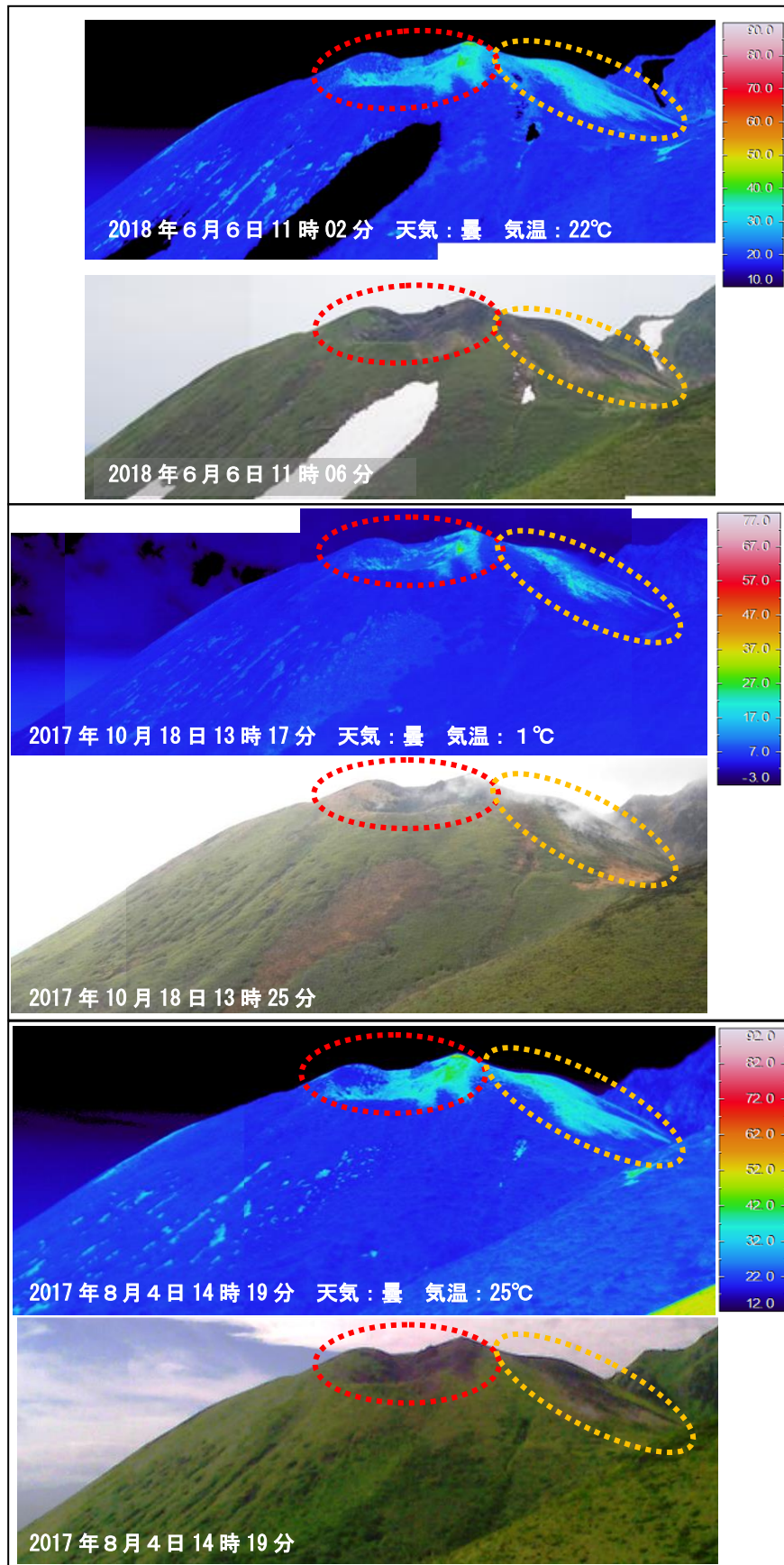


図3 秋田駒ヶ岳 南東方向から撮影した女岳の状況と地表面温度分布

- ・南東火口（赤破線）及び北東斜面（橙破線）の地熱域に、これまでと比較して特段の変化は認められませんでした。
- ・図中の破線の色は図2に対応します。

※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。破線領域外の地表面温度の高い領域は日射による影響で、地熱域ではありません。

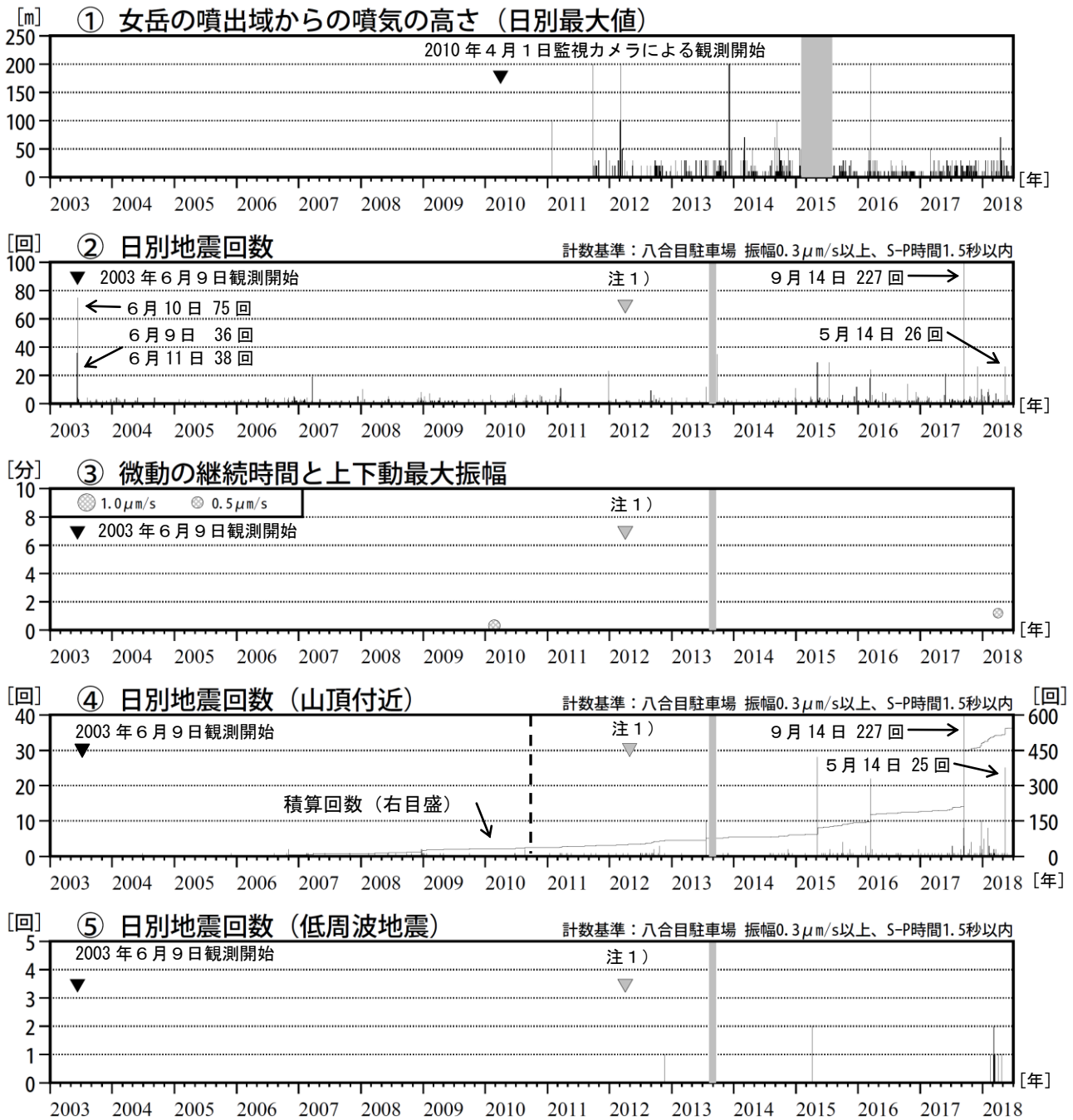


図4 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2018年6月）

- ・①仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・①～⑤の灰色部分は欠測を表しています。
- ・今期間、低周波地震は観測されていません。
- ・④は計数基準を満たす火山性地震のうち、山頂付近で発生したと推定されるものの回数で、2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、概ね判別できていると考えられます。

注1）観測開始の2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点を基準としていましたが、2012年4月1日から八合目駐車場観測点を基準としています。

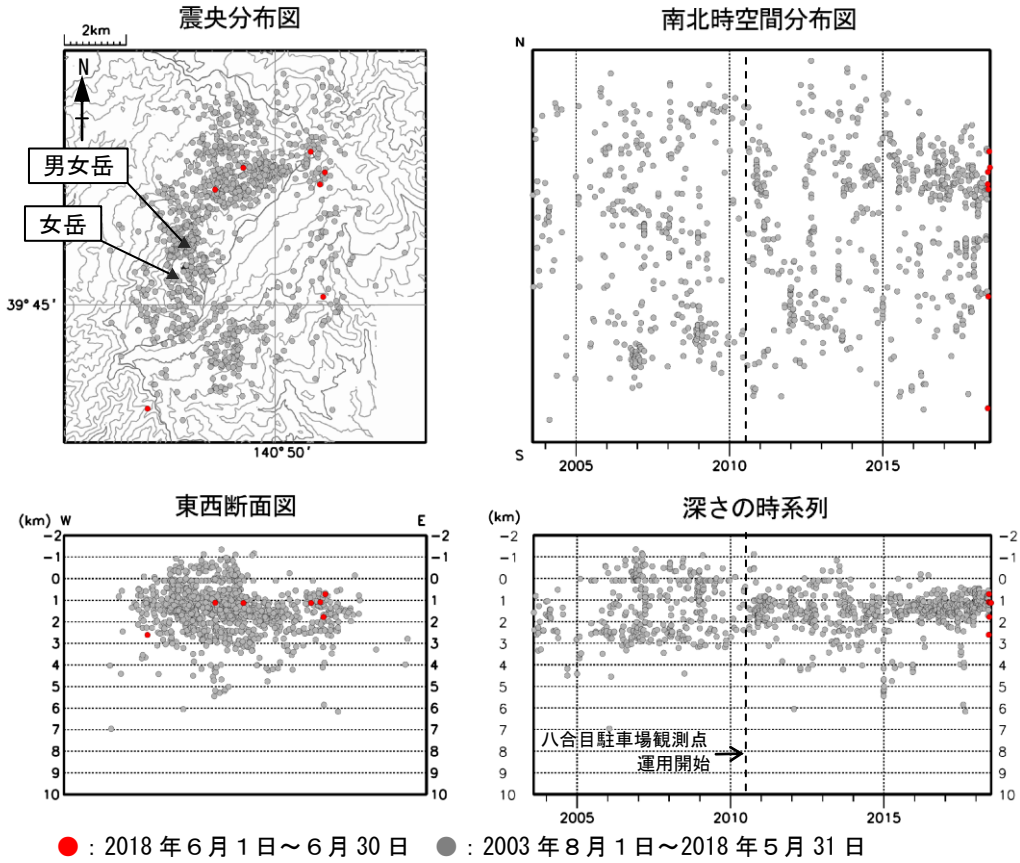


図 5 秋田駒ヶ岳 地震活動（2003 年 8 月～2018 年 6 月）
 ・2010 年 10 月 7 日以降、八合目駐車場観測点の運用開始に伴う影響がみられます。

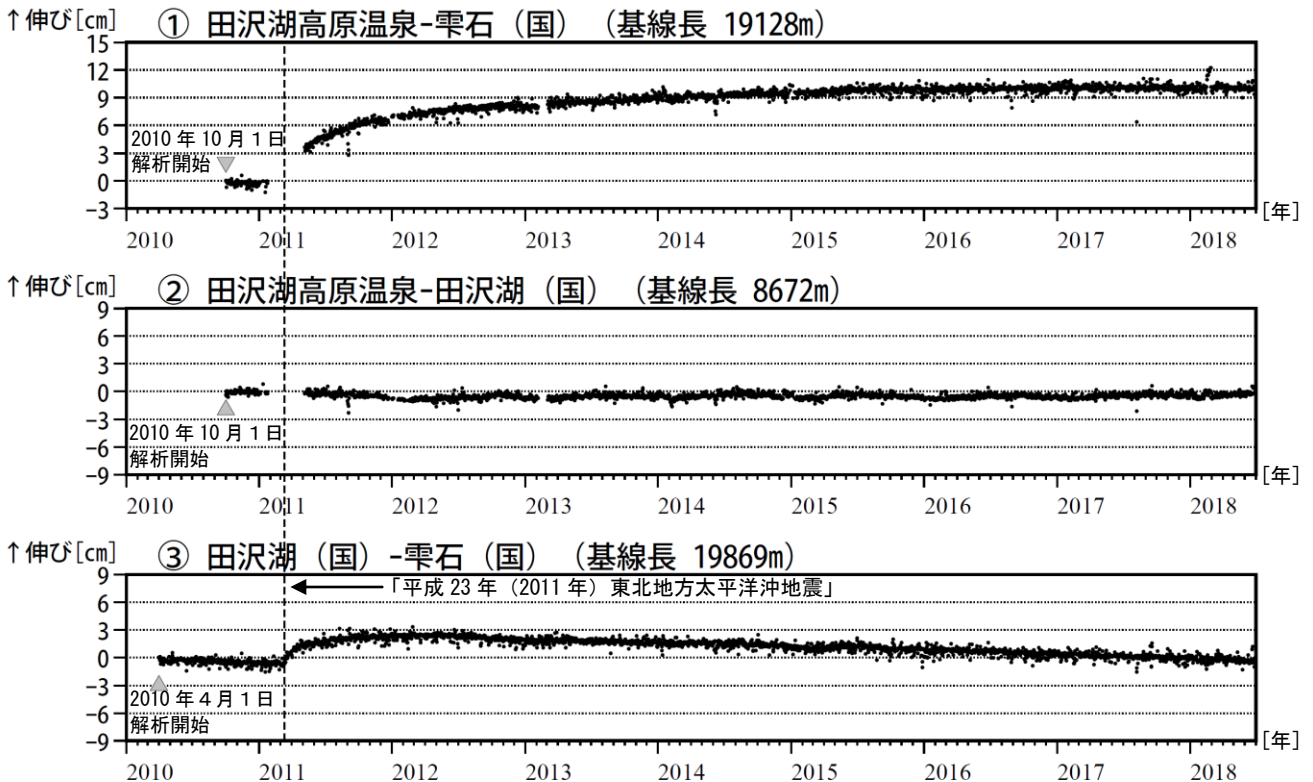


図 6 秋田駒ヶ岳 GNSS³⁾ 基線長変化図（2010 年 4 月～2018 年 6 月）
 ・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 ・①～③は図 8 の GNSS 基線①～③に対応しています。
 ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
 3) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

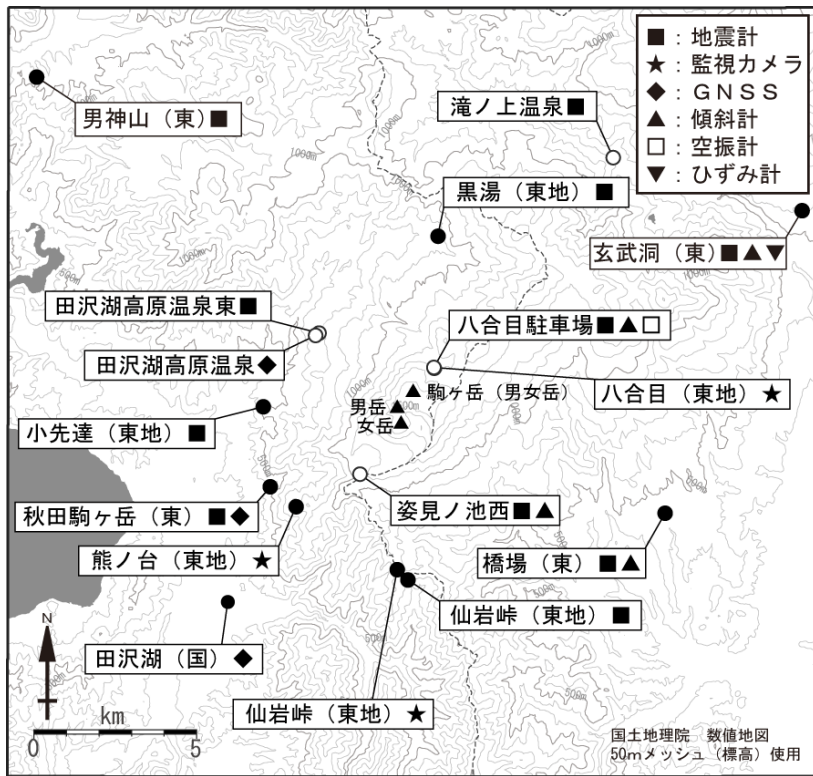


図7 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （国）：国土地理院 （東）：東北大学

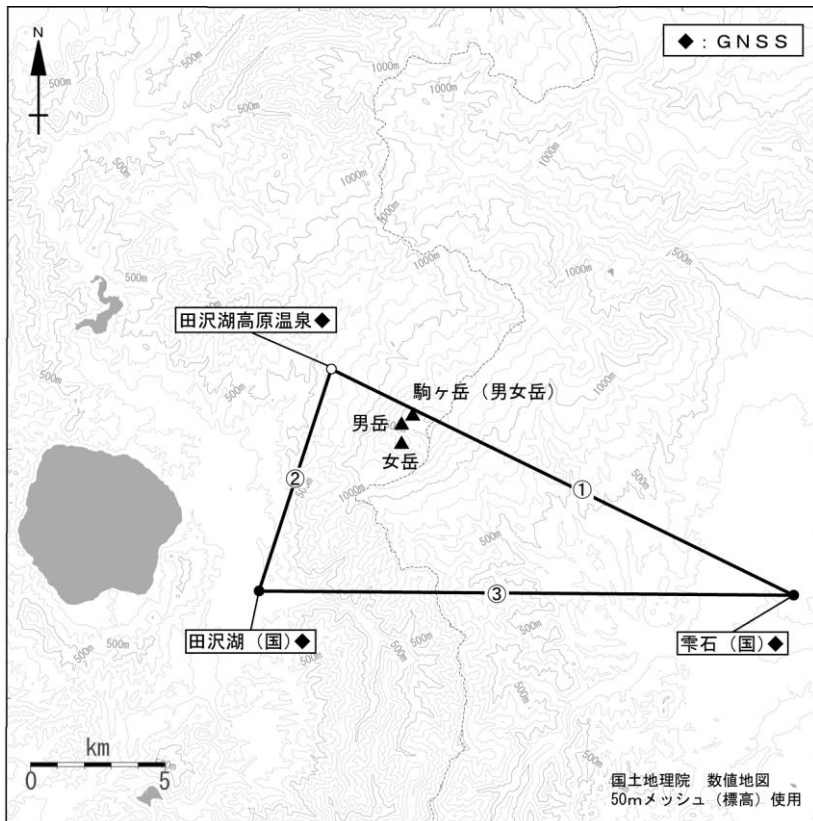


図8 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（国）：国土地理院